

国語 第4学年 どう直したらいいかな 授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語（令和6年度版）』の9月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

相手や目的を確かめて文章を読み直し、誤りと伝わりにくい表現を分けて直す。教師の好む言い方にそろえない。単元の終わりに残すのは、修正前後の文章、相手からの質問、直した理由や残した理由。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第3学年及び第4学年〕 B 書くこと(1)エ	エ 間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして，文や文章を整えること。
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕 (1)カ	カ 主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。

単元の目標

語句の係り方や段落の役割、文の続き方を理解することができる。相手や目的を意識した表現になっているかを確かめ、文や文章を整えることができる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①語句の係り方や段落の役割、文の続き方を理解している。（〔知識及び技能〕 (1)カ）	①「書くこと」において、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめ、文や文章を整えている。（B(1)エ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書出版の年間指導計画による全2時間（書②）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○相手と伝える中心を確かめる。誤りと説明不足を分けて探す。	学習状況を見て支援する。
第2次	2 （本時）	○質問を受けて書き手が修正を選ぶ。変更前後で伝わり方を比べる。	思①（発言・学習記録）

本時の案

本時の目標：相手や目的を意識した表現になっているかを確認、文や文章を整えることができる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「この相手に知らせたいことが、どの文で伝わりますか」 【めあて】相手や目的を確認して文章を読み直し、誤りと伝わりにくい表現を分けて直す。 〈予想される児童の反応〉 ・自分は知っているが相手には説明が足りない。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 （ 分）	○「この相手に知らせたいことが、どの文で伝わりますか」 質問を受けて書き手が修正を選ぶ。変更前後で伝わり方を比べる。 修正前後の文章、相手からの質問、直した理由や残した理由。 自分が選んだ言葉とその理由を相手に説明する。聞き手は、意図した意味が伝わった箇所と確かめたい箇所を返す。 〈予想される児童の反応〉 ・自分は知っているが相手には説明が足りない。 ・同じことを繰り返している。 ・順を変えると出来事が分かる。	教師作成の短い案内で、日時が抜けた文と語が重複した文を比べる。読み手の質問を記録し、書き手が目的を確認して採用する修正を選ぶ。 想定するつまづき：誤字だけを見て内容の不足を残す、理由なく友達文を直す。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 相手や目的を意識した表現になっているかを確認、文や文章を整えている。（発言と学習記録）
まとめ （ 分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・順を変えると出来事が分かる。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方確かめる。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「この相手に知らせたいことが、どの文で伝わりますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

つまずきやすい所と手当て

つまずきとして、誤字だけを見て内容の不足を残す、理由なく友達の文を直す。この場合は、教師作成の短い案内で、日時が抜けた文と語が重複した文を比べる。読み手の質問を記録し、書き手が目的を確認して採用する修正を選ぶ。おおむね満足できる状況は、相手や目的を意識した表現になっているかを確認、文や文章を整えているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

プリントの案

単元の学習メモ 修正前後の文章、相手からの質問、直した理由や残した理由。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。
交流と見直しの記録 交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：光村図書出版 年間指導計画。教材名・配当時数・時期・重点項目の出典。年間指導計画例 Excel（4年）「4年上巻」123行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/3db56761-ee29-4e40-81b8-d9480c60cd85/368）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。
（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価基準の観点と記録の考え方。
（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）
AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

